



中国四国ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 藤井 輝久

広島大学病院 輸血部 准教授

研究要旨

中国四国地方のHIV感染症の医療体制の整備を行うにあたり、職種別研修会を行い、受講者のアンケートによる評価を行った。研修の評価は概ね好評であったが、患者の高齢化に対応するために、研修も同じ職種同士で行うのではなく、チームとして問題症例を検討する多職種での研修に内容を変更する必要がある。研修者の対象を「病院勤務医」から「開業医」「施設嘱託医」等にシフトするだけでなく、HIV医療を「拠点病院」から「地域医療」へ返すための研修を増やして行く必要がある。そのためには、従来から行っている非専門施設向けへの情報発信や、小冊子の作成及びアップデートに力を入れていくとともに、患者にも生活習慣病などの予防に対するセルフマネジメントを行っていくよう、携帯アプリケーションなどを通じて達成していきたい。

A. 研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備のために、研修会の開催や教育資材の開発を行うことにある。またそれらを通じて、ケア提供者の人材育成と資質の向上を図ることである。さらに、患者の高齢化および余病の対応が増えることを踏まえ、HIV医療におけるスムーズな「病診連携」を実現するための、研修内容や教育資材の改良を模索することも目的とした。

B. 研究方法

研修会に関しては、その参加者数と参加者アンケートなどを集計し、経年的変化を解析した。解析の際に、個人情報と思われる項目を除いた。またこの研究においては、施設の倫理委員会の承認を毎年行っており、これらをもって倫理面の配慮とした。教育資材は、日常診療における患者の声あるいはブロック内の医療従事者のニーズ等に加味し、作成した。また新たな情報が得られた場合には、資材に反映させるために、アップデートを行った。

C. 研究結果

[1] ブロックでの教育研修

1-1. 医師を対象とした研修会

開催日：2018年12月16日、場所：広仁会館（広島大学霞キャンパス内）、参加医師：広島県内8人（内、施設内3人）。

研修会全体の評価は、「よい」もしくは「非常によい」と答えた者が100%であった。評価の高い内容は、「HIV感染症の基礎知識」と題した基調講演であった。講演者は兵庫医科大学の徳川多津子先生であった。またワークショップは、「HIV感染症で遭遇する日和見疾患の診断と治療」を、クリッカーによる回答を用いたクイズ形式で行った。昨年評価の高かった体験型学習であるが、この度の施設外参加者は、地元の開業医師が多かったため事前の協議で難しいと判断し、一昨年形式に戻した。正答率は、非常に高く概ね80%以上であった。本院エイズ医療対策室の村上英子の講演「HIV陽性者の抱える問題～ソーシャルワーカーの働き」、ロールプレイ「検査の勧め方と告知の仕方」の評価も、「よい」もしくは「非常によい」と答えた者が100%であった。これらの研修内容が今後の診療に役に立つかの質問には、全員が「とても役に立つ」と答えたが、同僚や後輩医師へ参加を勧めたいかとの質問には、

「ぜひ勧めたい」と答えた者は全員ではなかった。

1-2. 歯科医師を対象とした研修会

1) 拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会

開催日：2018年11月11日、場所：岡山コンベンションセンター（岡山市）、研修参加者は歯科医師・歯科衛生士併せて計56人であった。会議に先立ち、国立病院機構九州医療センターの山本政弘先生より「HIV感染症の基礎と最近の話題」の講演があった。また厚生労働省健康局結核感染症課エイズ対策推進室室長補佐の原澤朋史先生から「HIV 歯科診療ネットワークに期待するもの」の講演があった。その後会議に入り、国立病院機構名古屋医療センターの宇佐美雄司先生を中心に、「HIV感染者に対する歯科医療の現況と将来への期待」をテーマに議論がなされた。またこの度、島根県において歯科診療ネットワークが構築されたことが報告された。

会議終了後アンケートでは、「歯科診療ネットワークが構築されているか」あるいは「連携の計画がある」など連携に前向きな質問には、79%が「はい」と答えていた。しかし、実際の構築予定時期については未定が多かった（図1）。

2) 一般開業歯科医向け研修会

開催日：2018年12月8日、場所：広島県歯科医師会館（広島市）、研修参加者は16人であった。講演者は国立国際医療研究センター・エイズ治療研究センターの田沼順子先生であった。またこの度は、地元の非薬害HIV感染者に、診断時に医療忌避にあった体験談を語って頂いた。歯科医向け研修会では初めての試みであったが、非常に好評であった。アンケート調査での研修会の評価は図2の通りであった。

1-3. 看護師を対象とした研修会

（広島大学病院内で開催）

1) 基礎コース（2回）

開催日：2018年6月7～8日、7月26日～27日。参加人数は2回の合計で38人。

従来、参加対象者を「拠点病院勤務の看護師」としていたが、今年度より「拠点病院」にこだわらず、県内の非拠点病院や訪問看護ステーションの看護師も対象とした。内容は2回とも同一で、1日目は医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、カウンセラー、コーディネーターナース、歯科衛生士など、職種別にHIV感染症の関わりを講演する講義中心、2

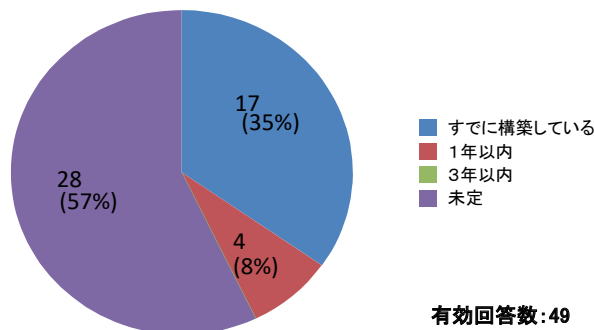
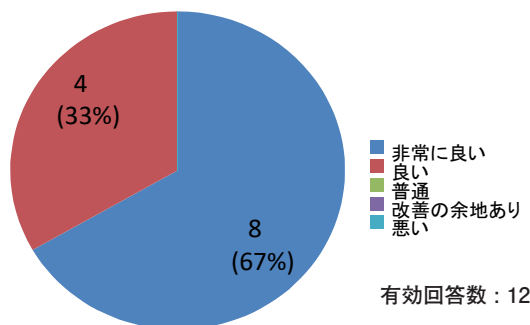


図1 歯科診療体制の構築予定時期に対する回答

2-1: 全体の印象



2-2: 講演に対する評価

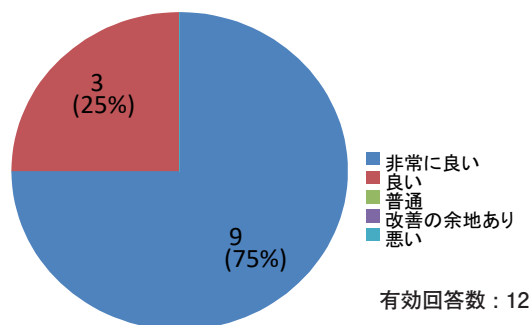


図2 HIV感染症講習会についてのアンケート調査

日目は症例検討会などのグループワークを中心にを行った。昨年まで行っていた診察場面の見学は、患者より研修者の同席を拒むケースが出始めたため、中止とした。

研修後、参加者全員にアンケート調査を実施したところ、研修全体の評価は7点満点中平均6.1で昨年と同じであった。プログラム内容別の評価として、6点以上は「医学的な基礎知識の講義」（6.1）、「看護」（6.1）の二つのみであり、昨年度評価の高かった「MSMの患者の体験談」（昨年6.6）、「心理的支援」（同6.1）、「薬害被害者の体験談」（同6.2）は、それぞれ評価を下げた。逆に「ロールプレイ」の代わりに新たに設けた「事例検討」は6.1と比較的評価が高かった。

昨年度はアドバンスコース（1回）も行ったが、今年度よりソーシャルワーカーの研修会に中核拠点病院等の看護師に参加を呼びかけ、合同研修会にしたので行わなかった。次年度の開催は未定である。

1-4. 中国四国ブロック内の拠点病院に勤務またはその院外薬局の薬剤師を対象とした研修会

開催日：2019年1月12日～13日。場所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋（広島市）。参加者は40人（内、院外薬局薬剤師2人）で、他ブロックからも3人の参加があった。

アンケートは定量的な評価ではなく、研修前後に感想を記載する形式で行った。ブロック内では、まだHIV診療チームといったチーム医療が確立していない拠点病院が多く、他職種（特に心理士、ワーカー、医師）との合同でディスカッションを行うことが、新鮮でかつ刺激的な内容であったとの評価が多かった。この研修会は、日本薬剤師会の専門薬剤師の研修でもあるためリピーターも多いが、初参加の薬剤師からも、カウンセリング技法を用いて服薬指導を行う点など今後の患者の面談に役立った、といった声も多かった。またリピーターの施設では、医師が抗HIV薬に詳しくないために、薬剤師が医師の代わりにレジメンを決定しているところもあった。その点でも薬剤師のモチベーションを維持する研修内容であった。

1-5. エイズ拠点病院に勤務するソーシャルワーカーを対象とした研修会

開催日：2018年10月6日～7日、場所：広島オフィスセンター（広島市）及び広島大学霞キャンパス

内の広仁会館。また今年、中四国内の中核拠点病院13施設及び薬害被害者を診療している病院の看護師にも参加を促した。1日目は例年行っている会議として各拠点病院の現状報告と、薬害HIV感染被害者支援担当者会議と称して、ACCの救済医療室の活動報告がなされた。ソーシャルワーカーの参加者数は1日目の会議が22人、2日目の研修会が41人であった。

2日目の研修会では「HIVに関する基礎講義&最新情報」を藤井より講演した。続いて「HIV陽性者の就労を支える～安心して働き続けられる社会であるために～」 「HIV感染血友病患者の歴史と就労」など、“就労支援”をテーマにそれぞれ、国立大阪医療センターの岡本学先生、大阪HIV薬害訴訟原告団の森戸克則氏の講演があった。その後、就労支援に難渋している事例の検討をグループワークで行った。

研修会の事後アンケートでは、ワーカーにとってあまり研修の機会がないことが明らかとなり、その点で、今後も「患者の声を聞く」「困難事例の検討」を中心に継続を望む声が多かった。

1-6. 心理士（カウンセラー）を対象とした研修会

今年度より、初心者向け、経験者向け共に研修主催は「広島県臨床心理士会」になったため、1-9. その他にて述べる。

1-7. 四国地方の医師・看護師を対象とした研修会

開催日：2018年9月23日。参加者26人。場所：サンポートホール高松（高松市）。香川県からの参加が19人と最も多く、また非拠点病院の小豆島中央病院からも4人の参加があった。他県の参加者は愛媛3人、徳島4人であった。「簡単に分かるエイズ診療」の講義を兵庫医科大学の日笠聡先生が行った。また「症例から学ぶエイズ診療」として、クリッカーを使用したQ&A方式のインタラクティブなセッションを設けた。ファシリテーターには、福山医療センターの齊藤誠司先生が行った。最後に、検査告知の場面のロールプレイを行った。いずれも好評であり、次年度も四国の他県で行われることが確認された。

1-8. 出前研修

非拠点病院2施設と、地域包括医療センター1件、医師が出前研修を行った。また先方の希望もあり、看護師のみで中核拠点病院へ出前研修を行った

(1件)。昨年の研修先には、精神科及び認知症リハビリ施設を持つ医療法人特別養護老人ホームは、今年度は依頼がなかった。

1-9. その他

「その他」とは、実施主体（主催）が本院ではないが、分担研究者やその研究協力者が研修の立案に大きく関与し、かつスタッフとして協力した研修会である。

1) 心理士・福祉士向け専門研修会（薬剤師向け研修会と同時並行：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2019年1月29日～30日。場所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋（広島市）。参加者は計13人（心理職7人、福祉職6人）であった。スタッフとして会の運営に携わった。

2) 心理職対象HIVカウンセリング研修会（初級者向け）

開催日：2018年11月10日。場所：広島大学病院内会議室。参加者は5人。「HIV/エイズの基礎知識」の講演を藤井が行い、かつ本院エイズ医療対策室の心理士が会の運営及びファシリテーターに携わった。

3) 広島市医師会の研修会

開催日：2018年5月19日。場所は、広島市医師会館内会議室。参加者は広島市医師会各区の代表者1人ずつ。広島市医師会主催の「HIV相談会」に向けた研修。内容は「HIVの基礎知識」と「検査結果説明のロールプレイ」であった。本院エイズ医療対策室の心理士がロールプレイのファシリテーターとして関与した。

4) 全職種を含めた研修会（包括カウンセリングセミナー：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2019年2月9～10日。場所；岡山アークホテル（岡山市）。毎年ブロック内の中核拠点病院及びHIVケアチームが構築できている拠点病院に声掛けし、それぞれ問題症例を持ち寄り、多職種でディスカッションするもの。今年度は非中核拠点病院である岡山赤十字病院が当番施設で行われた。例年高評価を得ている。本院エイズ医療対策室のスタッフが運営にあたった。

5) エイズ講習会（広島県医師会主催）

開催日：2019年1月21日。エイズ予防財団より助成を受けて行っているもの。場所：広島県医師会館内（広島市）。藤井が内容のアレンジや講演、講師の選定などの企画に参加した。当日の参加者は62人。特別講演の講師は、しらかば診療所の井戸田一朗先生。またクリッカーを使用したQ&Aセッションなどのファシリテーターを本院の医師が担当した。

[2] エイズ関連の情報提供

2-1. 中四国エイズセンターホームページ

(<http://www.aids-chushi.or.jp>)

本院主催の会議や研修会の様子を掲載した。また後述する小冊子の案内や、中国四国地方で行われるエイズ・HIVに関する研修会・イベントの案内、薬害血友病薬害被害者対象検査入院のお知らせ等を掲載した。またスマートフォンにも対応している。アップデート回数は年間63回であった。本年度、大きくアップデートしたのは英語版であり、2019年3月リリース予定である（図3）。2018年の年間閲覧



図3 英語版HP

回数は28,553回であり、引き続き多くの閲覧が得られている。

2-2. 小冊子・パンフレット等

「HIV検査について～HIV感染のリスクを考えて検査を行う医療者のためのガイドブック～」を全面改定し、第9版を作成した（図4）。また「初めてでもできるHIV検査の勧め方・告知の仕方」、「よく分かるエイズ関連用語集 Ver.8」、「これなら大丈夫、HIV感染症プライマリケア診療ガイド」は増刷した。

さらに、「血友病まね～じめんと」、「知らないままでいいの？ ケツユウビョウのあれこれ」は、それぞれ第4版にアップデートした。

2-3. 患者受診・服薬支援アプリ（せるまね）

昨年度Android版をリリースし、スマートフォンがiPhoneでなくても対応できるようになった。本院での利用者は50人を超えたが、新規の使用が頭打ちである。しかし、このアプリの利用により、「自立支援医療制度の更新忘れ」が大幅に減少した。また、患者より「服薬忘れもなくなった」との声もあった。次年度もアップデート予定である。

D. 考察

研修については、例年通り各職種別に年間最低1回は行っているが、職種別に行っている弊害が出てきている。具体的には、研修会や会議が乱立し、予定を組む場合も該当日に他の職種の研修会が入っていたり、あるいは2職種以上で行う研修会において、一方の職種が翌週に同様の研修会があったりするなどの事例である。その調整のために本来行うべき患者のケアや研究等に対する時間の妨げになってはいけない。そのため、必要な研修会は残し、不要な研修会は止めることも必要だろう。

また高齢化する患者は、急性期病院であるエイズ拠点病院より慢性期の診療にあたる慢性療養病床保有病院、施設、在宅へと、その診療の場がシフトしていく。しかし、未だエイズに対する知識と意識が低く偏見も根強いそれらの施設に対して、患者を安心して受け入れていただくためには、地域連携室のスタッフ、職種ではワーカーや看護師の力が必要である。そのため、ワーカーと看護師の合同で行う研修が必要で、かつ病病・病診連携のために研修内容に変更していく必要がある。本年度初めてワーカーの研修会に看護師を参加させて、グループワークを行う試みを行った。非常に活発な議論が得られた。今回のテーマは「就労支援」であったが、次年度は「病診連携」をテーマに行っていきたい。

(a)表紙



(b)最近の話題の梅毒の記述を増やした

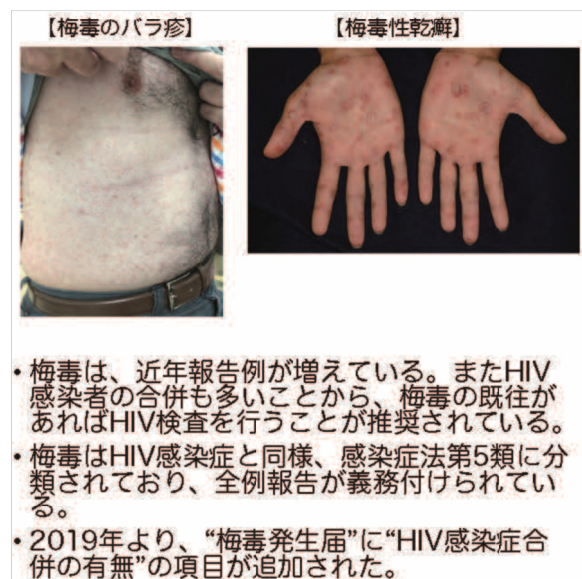


図4 「HIV検査について」 Ver.9

一昨年度立ち上げた中核拠点病院等看護担当者連絡会議（通称：HIV担当看護師ネットワーク会議）は、3年間ブロック拠点病院である広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院で開催していたが、次年度は山口大学医学部附属病院で開催することが決定した。丸山らが、日本エイズ学会学術集会で発表しているように、「HIV専任看護師」の存在を各中核拠点病院内に知らしめる意味でも、各県の中核拠点病院で輪番に行うことが望ましい。こういった会議を企画・運営し、かつ議論した意見をまとめることで、「HIV専任看護師」としてのアイデンティティを確認でき、モチベーションの維持にも寄与すると思われる。

医師については、非常に厳しい状況は続いているが、自施設に限っては、総合診療科長の協力を得たため、若手医師2名が外来診療に加わるようになった。そのおかげで今まで週3日のHIV外来診療日を、週5日全日にできた。研修を地道に行ってきた賜物と言える。しかし、一方で研修会の参加者数は頭打ちであり、後期研修医など若手医師の参加は少ない。もともと若手医師が研修を受けやすいように、日曜日、日帰りを予定していたが、再考の時期にさしかかっていると思われる。また1日の座学で必要な知識や技術を習得できるとは到底思えない。そのため、今後は実地に軸足を置いた研修内容にシフトする予定である。

患者の余命が延長し、患者の高齢化が現実のものとなっている。本院では50歳代以上の患者はまだ32%であるが、他のブロック拠点病院では50%に近いところも出てきた。治療も改善し、「エイズで死ななくなった」現在では、HIV感染症はその一つの合併症に過ぎず、生活習慣病や癌、肺炎など非感染者の高齢者にも発症する疾患がより問題となってくる。そのため今後、よりエイズ診療のことを知ってもらいたい対象者は、「エイズ拠点病院勤務医」ではなく、「非専門病院」「開業医」「施設嘱託医」等である。こういった医師が「エイズ研修」に向かわせるには、各自治体の医師会の協力が不可欠である。今年度は3年振りに広島県医師会が、エイズ予防財団に応募して予算を獲得し講習会を行った。参加者も予想より多く、内容も好評であったため、是非毎年行っていただきたいと考えている。そのためには、歯科分野のように医師会とも綿密に連携する必要がある。

「施設嘱託医」は高齢のことが多く、医学的知識のアップデートは困難な集団ではある。そのため年1回の研修だけでは受入がスムーズになるとは思えない。さらに、所属長ではないため、自身に患者の受入の決定権がない場合もある。そのために今後も、出前研修等を通じて「現在は安心して患者をケアできる」ことを訴えて行きたい。

E. 結論

ブロック内のエイズ拠点病院に対する職種別研修は再考の時期にさしかかっており、次年度からは2職種合同研修会の開催や内容の大幅な変更も考えて行く必要がある。さらに、拠点病院以外の非拠点病院や施設の医療従事者に対しては、HIV感染症が安定している患者の受け入れ拒否がないよう、小冊子を作成して非専門病院・施設に配布し、かつ「出前研修」を頻繁に行うことで理解を促していく必要がある。そのためには従来通り県担当課等との連携と共に、医師会との連携も密にする必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

- 1) 新谷智章、山崎尚也、岩田倫幸、齊藤誠司、北川雅恵、小川郁子、岡田美穂、濱本京子、藤井輝久、栗原英見、柴秀樹：HIV陽性者における口腔環境と味覚機能について. 第11回日本口腔検査学会. 2018年8月25日～26日. 東京
- 2) 丸山栄子、池田有里、宮原明美、藤井輝久、品川佳子、谷岡直子：中国・四国ブロック中核拠点病院HIV担当看護師の課題～HIV担当看護師会議のアンケートより～. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 3) 喜花伸子、杉本悠貴恵、内野悌司、早坂典生、栗栖茂、藤井輝久：NPOと協働したHIV検査相談研修会の効果についての検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 4) 石井聡一郎、秋月萌、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、丸山栄子、高田昇、山崎尚也、藤井輝久：薬剤師による小児HIV感染症患者への服

- 薬支援. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 5) 杉本悠貴恵、喜花伸子、黄 寛美、柿本聖樹、井上暢子、山崎尚也、丸山栄子、宮原明美、池田有里、村上英子、石井聡一郎、藤田啓子、畝井浩子、齊藤誠司、高田昇、藤井輝久：広島大学病院に初回受診したHIV/AIDS患者の服薬開始までの心理的プロセスについて. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 6) 藤井輝久、山崎尚也、井上暢子、柿本聖樹、齋藤誠司、石井聡一郎、藤田啓子、畝井浩子：TDFよりTAF変更例における血中クレアチニン及びeGFR値の変化. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 7) 横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊大、藤井輝久：エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 8) 岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、加藤英明、石ヶ坪良明、中島秀明、吉野友祐、太田康男、茂呂寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地 正：国内新規HIV/AIDS診断症例におけるHIV-1の動向. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 9) 山崎尚也、丸山栄子、杉本悠貴恵、村上英子、宮原明美、池田有里、喜花伸子、石井聡一郎、小林正夫、藤井輝久：妊娠4ヶ月で実施したHIVスクリーニング検査が陰性であった母子感染の一例. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 10) 新谷智章、山崎尚也、岩田倫幸、齊藤誠司、岡田美穂、松井加奈子、畝井浩子、藤田啓子、濱本京子、木下一枝、池田有里、藤井輝久、柴秀樹：抗HIV薬が口腔環境と味覚機能に及ぼす影響. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 11) 村上英子、山崎尚也、藤井輝久、宮原明美、池田有里、石井聡一郎、藤田啓子、畝井浩子、杉本悠貴恵、丸山栄子、喜花伸子、齊藤誠司、高田昇：ワークショップ 受診中断者を“ゼロ”にする～受診・服薬継続管理アプリ「せるまね」の活用が自己管理能力に与える影響～. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会. 2018年12月2日～4日. 大阪
- 12) 井上暢子、山崎尚也、藤井輝久：ART療法開始後に自己免疫性溶血性貧血（AIHA）を発症した一例. 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2018年11月16日～18日. 鹿児島
- H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし